／【K：】Ｓｅｒｖｅｒ／水道産業新聞／７月★／７月９日（４５０１）★／１２面　2009.07.08 13.49.59　Page 12

超低含水率型遠心脱水機を発売

含水率60％台も実現可能

西原環境テクノロジー　下水汚泥処理の負担大幅軽減

西原環境テクノロジーは、超低含水率型の下水汚泥用新型遠心脱水機「SDRインパクト」を開発、商品化した。同社の従来の高効率型遠心脱水機と比較して、脱水汚泥含水率を8～10ポイント以上も低減し、ケースによっては含水率60％台の達成も可能だという。驚異的な脱水性能を誇り、汚泥の脱水に関する維持管理コスト・エネルギーの削減に非常に大きな効果が期待できる同機が市場にどういった影響を与えるのか、動向が大いに注目される。

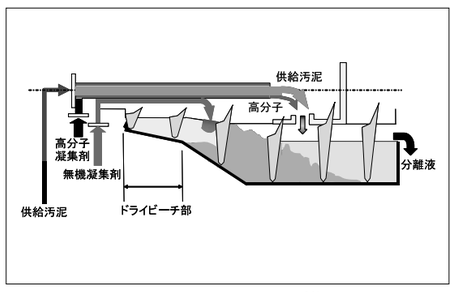
西原環境テクノロジーの従来の遠心脱水機ラインナップは、標準型、高効率型、低動力高効率型の3種類で、それぞれ、高分子凝集剤のみを使用する1液調質と、高分子凝集剤と無機凝集剤を併用する2液調質の両方に対応できる。これに対してSDRインパクトは2液調質専用となっている。

同社の従来型遠心脱水機は2液調質の場合、供給汚泥に無機凝集剤、高分子凝集剤を添加してから脱水機内部に投入する機構を採用しているが、SDRインパクトは脱水機内部ドライビーチ部分の分離が進んだケーキ状汚泥に無機凝集剤を直接注入することで、従来機高効率型比で脱水汚泥含水率8～10ポイント以上低減という低含水率化を実現した。具体的な数値としては、混合生汚泥、消化汚泥で脱水汚泥含水率は68～72％ほどの見込みだ。

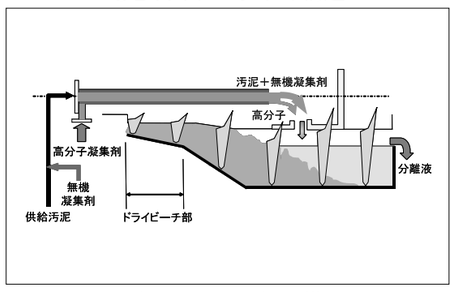
これにより、脱水汚泥の処理コストやエネルギーを大幅に削減できるほか、同機そのものも低動力タイプで、従来機高効率型と比べてCO₂排出量を最大40％削減できる。一方、高分子凝集剤、無機凝集剤の使用量やメンテナンスの頻度は従来機と同程度で、維持管理の容易さは従来と変わらない。

また、従来機からのアップグレードも、内胴スクリュウを交換し、薬注ルートを変更・新設することで可能となり、装置の長寿命化にも貢献する。SDRインパクトの開発にあたっては、回転体や内胴スクリュウ構造を含む機械全体の最適化を図ったため新設と同等の性能にはならないが、十分に脱水汚泥含水率の低下が見込めるという。

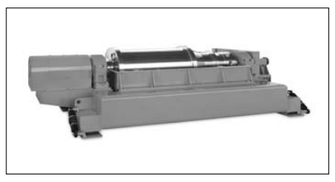
同社の宗才俊則・常務執行役員は「当社は遠心脱水機のバイオニアとしての誇りと自信を持ち、技術革新に努めてきた。SDRインパクトでは、脱水汚泥含水率が70％を切るという一つの夢を実現したと言える」とコメント。販売機種は汚泥処理量2・5立方㍍／時から50立方㍍／時までの8機種をラインナップし、



SDRインパクトの構造



従来型遠心脱水機の構造


SDRインパクト

チャッキバルブで新製品

石崎製作所　新設計で製造原価大幅削減

逆止弁専業メーカーの石崎製作所は、ねじ込み式チャッキバルブ「SMGシリーズ」ステンレス製の新製品を販売している。呼び径20Aのみのテスト販売だが、製造原価を大幅に削減し、販売価格は従来製品の半額以下を実現した。

従来の同社脱水汚泥分野の削減を課題とする都市下水処理場の更新・増設需要をターゲットに営業展開する。価格は従来機高効率型、低動力高効率型と同等ベースの予定で、5年間で50台の販売を目標として、8月に発売する。

なお、同機は7月28日に開幕する下水道展の同社ブースに出展される。

SMG－S20A10K㊧、20K

日本の技術を世界に普及

～研究開発委託先20者を公表～

NEDO　水循環で新規プロジェクト

新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）は、同機構の新規事業「省水型・環境調和型水循環プロジェクト（プロジェクトリーダー＝松尾友矩・東洋大学学長）」における水循環要素技術の開発、水資源管理技術の開発それぞれについて委託先を公募していたが、このほど、委託先20者を公表し、プロジェクトの詳細を明らかにした。研究開発期間は今年度から2013年度までの5年間で、事業費は年間約11億円の予定。今回の委託先には産学の多彩な顔ぶれがそろい、今後の活動に注目が集まる。

同事業は、膜技術をはじめとする日本の優れた水処理技術を強化、活用して省水型・環境調和型水循環システムを構築し、さらには省水型・環境調和型水資源管理技術を国内外に普及させることが目的。要素技術の開発では①革新的膜分離技術②省エネ型膜分離活性汚泥法（MBR）技術③有用金属・有害物質の分離・回収技術④高効率難分解性物質分解技術―の4項目の研究開発を、水資源管理技術の開発においては、同技術の国内外への展開に向けた実証と調査を行う。最終的には「従来法に比べ、処理性能を維持・向上しつつ、エネルギーをシステム全体として30％以上削減する」ことを目標とするという。

なお、革新的膜分離技術の開発については、平成20年度に経済産業省が直轄事業として産業技術総合研究所、造水促進センター、日東電工、東レに委託して実施しており、これを今年度よりNEDOの同プロジェクトに組み入れる形で継続する。また、水循環要素技術開発、水資源管理技術開発ともに近く追加公募を予定している。

【今回発表された委託先】

オリエンタルコンサルタンツ▽アクアテック▽クボタ▽日立プラントテクノロジー▽竹中工務店▽野村総合研究所▽ＩＣＳコンベンションデザイン▽佐賀大学▽造水促進センター▽日中経済協会▽ＪＦＥエンジニアリング▽住友精密工業▽双日▽東レ▽特定非営利活動法人日本水フォーラム▽産業技術総合研究所▽日本原子力研究開発機構▽日揮▽日本カニゼン▽海外水循環システム協議会

日本ダクタイル鉄管協会　理事長　本山智啓氏

管路のトータルケアを　将来を見て耐震化図るべき

「協会は公的使命感が強い」という

先月9日付で日本ダクタイル鉄管協会の新理事長に就任した。東京都水道局時代の豊富な経験で水に対する想いは人一倍強い。これまでの思い出を伺うと「新人の頃には、第4次拡張計画で小作取水堰の基本設計に関わることができました」という。

現在の水道事業を取り巻く環境については「事業体の財政基盤の脆弱さ、施設の老朽化、職員の大量退職に伴う技術継承の困難の3点が課題とされています。この3点は小手先で一つずつ対応するのではなく、広域化や官民連携、PFIといったことも視野に経営形態そのものを考え直すような大きな視点で解決を目指すべきでしょう」とし、管路の再構築については「水道ビジョンではおよそ10年で基幹管路の耐震化100％を掲げています。今後は長期的、計画的に耐震化に取り組まなければなりません。にもかかわらず耐震化率12％という現実があるわけです。本当にこれで地震に強い水道と言えるのでしょうか？長期的に財政計画とリンクさせて見通しを立てる取り組みが必要でしょうし、理想は抜け出し防止の耐震管を100％採用することでしょう。それが難しいとしても、単純にコストの安い高いで比較するのではなく将来を見て確実に耐震化が図れるものを入れていくべきではないでしょうか」と指摘する。

近代水道120年で60年余の歴史を有し、共に歩んできた協会については「開じた管路に圧力をかけて水を送る近代水道を支えたのは鉄管であり、まさに近代水道の申し子とも言えます。今や水道資産の70％を占める管路の重みは大きく、当協会は国民共有の財産作りをお手伝いしていると思っています。その意味で公的な使命も持っている団体であることは間違いなく、会員企業もただ単に売れば良いというのではなく、水道に、そして社会に対する高い使命感を持って今日まで行動されてきました。その中にあって事業体と企業の仲立ちをしていくのがこの協会の役割でないでしょうか」と感想を述べる。今後は「ダクタイル鉄管に対する調査研究は勿論のこと、継手接合の技術説明会など積極的に事業体へのサポート体制を構築していきたいですね。パイプのゆりかごから墓場までではないですが、生産から布設、相談、点検、更新まで水道管路のトータルケアをやるのが我々の仕事だと捉えています」と意気込みを語る。取り敢えずは日水協の地方支部総会への〝皆出席〟で事業体へのアピールを図るとのこと。

【もとやま・ともよし】

昭和47年、北海道大学大学院（衛生工学）修了後、東京都水道局へ。経営計画部計画課長、東村山浄水管理事務所長、多摩水道対策本部施設部長、給水部長、浄水部長、多摩水道改革推進本部長などを歴任。退職後、東京水道サービス、PUCを経て同協会理事長に。昭和22年9月生まれ、61歳。趣味は、刀剣鑑賞、ガーデニング。

新会長に加藤炳秀氏　全管連青年部総会

加藤会長

全国管工事業協同組合連合会青年部協議会（五十嵐俊弘会長）は秋田市で第13回通常総会を開き、平成21年度事業計画などを決めた。また、役員改選が行われ新会長に同協議会事業副部会長の加藤炳秀氏（京都府管工事工業協同組合青年会副会長）が就任した。

平成21年度事業計画では研修会、講演会の開催、出前トークミッション、周年事業への参加、相談員の派遣など各種事業を展開する。

加藤新会長は「これまで事業活動に参加してきたが、会長に就任し、身の引き締まる思いで一杯だ。今年のテーマをオンリーワンとし、足元を固めるヒントづくりをしていきたい。青年部らしく切磋琢磨して更なる組織化を目指したい」と決意を述べた。

川口氏が会長に　高耐圧ポリ協会

川口会長

高耐圧ポリエチレン管協会は東京・霞ヶ関の東海大学校友会館で第22回定期総会を開き、21年度事業計画などを審議し承認した。また役員改選に伴い、大日本プラスチックスの川口博司・専務執行役員が新会長に選任された。

21年度は、日本プラスチックス工業連盟の「TC138（プラスチックパイプ関係）幹事国業務委員会」へ参加し、関連ISO規格の状況調査を実施する。また農水パイプライン技術基準の次回改訂に向けて神戸大学農学部や農村工学研究所と共同研究を実施。滑走路下埋設管路を想定した埋設実験を港湾空港技術研究所と共同で実施する。

競合品対策を推進　全国ヒューム管協会総会

中川会長

全国ヒューム管協会は東京都港区の虎ノ門パストラルで定期総会を開き、平成20年度事業・決算報告と同21年度事業計画・予算案などを決めた。今年度事業では、JIS改正に伴う協会規格の改正や、ヒューム管の特長を明確にする基礎資料の作成を行い、競合品対策の推進や、耐震性におけるヒューム管の優位性PRなどを積極的に推進していく。総会の開催にあたって中川喜久治会長（中川ヒューム管工業社長）は「他素材に対する競争力をしっかり養い、21世紀もヒューム管が生き残れるよう尽力する」と挨拶した。

営業・技術研修会開く　日本スナップロック協会

喜多島会長

熱心に聴講する参加者

日本スナップロック協会は、東京浜松町海員会館で営業・技術研修会を開いた。同協会が展開するマグマロック工法mini・NGJ、マグマロック工法NGJが下水道新技術推進機構の平成20年度建設技術審査証明を取得したことを受け、会員を対象に同技術の概要などを解説した。喜多島恒会長は「国も下水管路の耐震化に力を入れている」として同技術の市場における有効性を強調。参加者を激励した。

事務所を移転　プラマンホール協会

プラスチック・マスマンホール協会は7月13日付で事務所を左記の住所に移転する。

〒103－0013東京都中央区日本橋人形町三丁目七番三号NCC人形町ビル2F、TEL（03－5652－5922）、FAX（03－5652－5923）

本社オフィスを移転　日鉄パイプライン

日鉄パイプラインは今月27日より、本社オフィスを移転する。移転先住所は以下のとおり。

〒141－0032、東京都品川区大崎1丁目5番1号（大崎センタービル）、TEL03－6865－6000

協会設立総会

エコサル防協設立　渡辺氏が会長就任

エコサルファー防食工法協会が東京・虎ノ門のTKR虎ノ門ビジネスセンターで設立総会を開いた。会長には渡辺雅夫・NIPPOコーポレーション執行役員技術開発部長が就任した。

エコサルファー防食工法とは、コンクリートと同等以上の強度性能を持ち、かつ高耐食性を有する改質硫黄固化体（レコサール）をコンクリートの防食被覆層として用い、コンクリート躯体の長寿命化を図る工法。同協会では、21年度事業として、工法認知度の向上の観点から協会として各自治体および建設コンサルに対して積極的な工法PR活動を展開し、市場開拓、普及活動を行なう。

なお副会長には平井正哉氏（大林道路）、原誠氏（大阪防水建設社）の2名が、また事務局長には北野好英氏（グローバルワークス）が就任した。

営業品目　ワセダ式生物酸化処理装置
ワセダ技研株式会社
本社　東京都中央区築地1丁目4番5号 第37興和ビル TEL:03-3542-7181(代)
札幌営業所　北海道札幌市中央区北2条西1-10 ビア2・1ビル TEL:011-290-6730
仙台営業所　宮城県仙台市青葉区本町2丁目5番14号 加藤ビル TEL:022-227-2120
名古屋営業所　名古屋市中村区名駅3丁目17番34号 ナカモビル TEL:052-589-0550
大阪営業所　大阪府大阪市北区梅田2丁目5番8号 千代田ビル西別館 TEL:06-6344-0979
福岡営業所　福岡県福岡市中央区天神4丁目10番9号 第2正友ビル TEL:092-714-3783
URL:http://www.wasedagiken.co.jp/
ウノ式 傾斜板沈降装置

水道サービスの未来を支える
広域化への対応
高品質な業務管理
安心の施設運転管理
新技術の導入
給水装置管理
優れたシステム開発・運用
料金徴収業務のエキスパート
DK 第一環境株式会社
東京都中央区日本橋人形町3-3-6 TEL.03-5645-6080 FAX.03-5645-6081
http://www.daiichikankyo.co.jp/

Be Alive City-Life　TOMISU
“トミスは新しい都市環境創りをめざし
日々躍進しております。”
鉄蓋Nシリーズ誕生!!
Nシリーズの主な特長
●重耐荷重構造
・T-25荷重適合
●ガタツキ防止
・NCによる精密加工仕上げ
・鉄蓋専用パッキンの標準装備
●飛散防止
・閉塞ロック金物十内蝶番
上下水道用鉄筐・鉄蓋
〔株〕トミス
MZNR-25DE
本社　〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-15-5 ☎03(3370)6107(代)
東京営業所 ☎03(3370)6104　東北営業所 ☎022(236)0101　須坂工場 ☎026(246)9243
名古屋営業所 ☎052(303)2241　大阪営業所 ☎06(6767)2215　長野営業所 ☎026(245)4523
青森出張所 ☎0177(73)2554　横浜出張所 ☎045(573)4523　福岡営業所 ☎092(482)1272
配送センター ☎0492(64)6375
カタログ・資料のご希望の際はご連絡下さい。

上・下水道のPRに!!
イベント用商品を
多数取り揃えました
みずまるくん
水道週間、下水道の日、施設見学会、
記念式典などにご利用下さい。
●お申し込み、お問い合わせは下記へどうぞ
水道産業新聞社/企画制作部
大阪市北区堂山町1-5(大阪合同ビル)　☎06(6312)3871
東京都港区虎ノ門1-19-10(第6セントラルビル)　☎03(5251)0300
http://www.suidou.co.jp　E-mail：kikaku@suidosangyo.jp